

文教厚生委員会の行政調査

平成23年10月31日から11月2までの3日間、高知県宿毛市すくもの小中学校再編に関する取り組みについてと愛媛県東温市のエコ・キッズ支援事業及び指定ごみ袋配布事業について先進地調査を行いました。

【宿毛市】

宿毛市は、四国の最南端に位置し、全般的に山岳丘陵地帯で約84%は森林地帯です。四季を通じて温暖で、足摺宇和海国立公園の豊かな自然に恵まれ、冬に気象条件が整えば、夕日が沈むときにダルマに見える「ダルマ夕日」を見ることが出来ます。

主要産業の漁業は、黒潮が豊後水道へ流れ込み、豊富な魚種を誇る好漁場としてまき網や敷き網が行われています。養殖業が盛んで、ブリ、タイ、カンパチは県下水揚げ量の過半数を占めます。交通面では、九州へのフェリー航路や土佐くろしお鉄道、宿毛湾港等の整備が進んでいます。昭和29年3月31日に市制を施行し、人口約2万3千人を有します。

【調査概要】

同市の小学校児童数は、平成2年の14校2千141人から平成22年の9校

千141人に、中学校生徒数も平成2年の7校千216人から平成22年の6校667人と著しく減少しています。市は、文部科学省と高知県教育委員会の小学校適正基準等に基づき、市立小中学校再編計画を平成22年5月に新たに策定し、小中連携一貫教育を盛り込んでいます。

再編計画による施設整備等費用の総額は70億円と試算され、再編計画の実施には、地域住民との調整に多くの時間が費やされてきました。

本市の学校再編計画は複式学級の解消が重点になっています。地域は学校とともに過ごしてきた歴史があります。本市も宿毛市のように将来の人口想定の上に立って、統合した場合としなかった場合の財政的試算をすべきであり、その結果を市民に明示した上で、統合が必要なら地域住民の了解を得るような努力が必要であると思われました。

【東温市】

東温市は、平成16年9月21日に重信町と川内町が合併して誕生し、松山市から12キロメートルに位置するという恵まれた地理的条件と自然環境から、都市近郊田園都市として発

展を続けています。水と緑の豊かな自然に恵まれ、温暖で降雨量は比較的少ない気候です。近年は、松山自動車道など道路交通網の整備が進み、基幹的総合病院の立地や大型ショッピングモールの進出などにより活気あふれる都市として躍進し、人口約3万4千500人を有します。

【調査概要】

市は、環境基本計画「水・緑・ころときめく東温市」を掲げ、ロハスタウンの構築を目指しています。環境と健康を重視し、乳幼児期から自然環境に親しみ環境意識を高め、将来を担うエコ市民の育成につなげるための様々な取り組みが行われています。また、持続可能な環境教育の仕組みとなるミティゲーションシステムを構築しています。これは、市が排出する二酸化炭素1トンあたり500円で積算した額と市庁舎で削減した光熱費を環境教育の財源に充て、市民の環境教育活動をサポートし、さらに二酸化炭素を削減しようとするものです。今年度は250万円を投資目標としています。平成21年にはエコ・キッズ支援事業が評価され、地域づくり総務大臣賞を受賞しています。

市民が地球温暖化を理解し環境問題に取り組まれていることに感じました。自然環境に関心を持ち、温

暖化やエネルギー問題を身近に捉える事ができる環境教育が必要だと感じました。また同市は、ごみ減量化を目的として新市発足以前の旧町時から各世帯に対し年間100枚を限度に指定ごみ袋の無償配布が行われています。不燃ごみの多くは資源ごみとされ、細かく分類し回収しています。市民のマナーと理解が必要で、この仕分けが守られることでごみの排出量は少なくなり、昨年度の可燃物回収量は5千336トンでした。松浦市の排出量は5千803トンですから、東温市との人口規模の比較からもごみの排出量が多いことがわかります。これまで以上にごみの減量化を図る必要性を感じました。



【東温市】